

平成29年7月31日

地方独立行政法人山梨県立病院機構
理事長 小俣 政男

平成28年度の決算と今後の取り組み

平成28年度の決算が整いましたので、決算の状況及び今後の取り組みについてご報告いたします。

A) 決算の状況

平成28年度は、第2期中期計画期間の2年目ではありますが、計画と比較して、経常利益は9億5,300万円増の18億2,100万円と、純利益は7億9,800万円増の16億2,000万円となりました。経常利益は地方独立行政法人化後7年間で最多となりました。

B) 病院の現状と展望

① 救命救急医療体制の充実・強化

当院は、従来から三次救急に最大限の努力をして参りました。

また、地方独立行政法人化後に一次、二次救急を含む全ての患者さんを受け入れてきました。その結果、救急車で搬送された患者数は、平成21年度との比較で、平成28年度は、三次救急は31%増の1,235人、二次救急は97%増の2,568人、一次救急他は52%増の2,297人となりました。

これは、山梨県全体における救急医療体制の基盤を担っていると認識しております。

さらに、本年度秋には、県立中央病院の屋上ヘリポートに給油基地が完成し、より効率的なドクターヘリの運航が図られる見込みです。

② がん医療への取り組み

遺伝子解析を用いた医療を行うため、平成29年度の組織改正において、がんセンター局に総合ゲノム診療統括部を新設するとともに、平成

29年5月からは遺伝子外来をスタートさせ、がんの可能性がある患者さんの血液などから遺伝子を検査し、最も効果的な治療方法を選択することが可能になりました。

また、消化器に関するがんなどの疾患に対し、内科系と外科系が連携して高度で専門的な医療を提供するため、平成29年度の組織改正において、肝胆膵・消化器病センターを新設しました。

さらに、法人化後に開設した通院加療がんセンターの患者数は、平成22年度は5,185人でしたが、平成28年度は11,603人（123.8%増）と著しく増加しました。

がんセンターを有しない山梨県において、県立中央病院がその役割を十二分に果たせるよう努めております。

本県は、東日本随一の肝臓がんの県ですが、画期的新薬ソバルディ、ハーボニーの治療を開始し、平成29年3月末までに440名の患者さんに投与し、ウイルスを駆除しました。

これは本県における肝臓がん撲滅の第1歩と考えています。

③ 先進医療への取り組み

県立中央病院では平成28年3月に低侵襲手術支援ロボット da Vinci Xi を導入しました。前立腺がんについては、平成29年3月末までに23例の手術を実施しました。また、平成28年4月から保険適用となりました腎臓がんについては、平成29年3月末までに5例の手術を実施しました。さらに、子宮頸がんの患者さんに対し10例の手術を実施し、ロボット支援広汎子宮全摘術の実施可能保険医療機関（先進医療）の要件を満たしたところです。

da Vinci Xi で手術することにより、従来の手術と比較して患者さんへの身体の負担が少なく、入院期間も短縮されております。

また、白血病等の無菌状態での薬物治療を充実させるため、平成28年度に無菌室を1床整備し2床としたところです。平成29年度には新たに8床の整備を予定しており、造血幹細胞移植を行った患者さんの治療に対応して参ります。

今後も地方独立行政法人制度の特性を活かし、高度で専門的な医療を提供して参ります。

④ 精神科救急、児童思春期精神科医療の充実

北病院では、平成27年度から本格的に県の精神科救急医療体制の常時対応型病院として、救急患者を受け入れ、治療を行っています。

また、県内医療ネットワーク体制の中で唯一の児童思春期病棟を持つ病院として、平成29年4月より看護師配置を10:1へと手厚くするなど、病棟の機能強化を行いました。児童思春期外来の患者数は年々増加しており、こころの発達総合支援センターとも連携を図り、こころの問題を抱えた子供の診療を専門的に行い、精神科救急及び児童思春期精神科医療の充実を図っていきます。

⑤ 世界標準を目指す若手医師集団の育成

平成29年度も22人の初期臨床研修医を採用し、初期臨床研修医40人、専修医29人 計69人の若手医師が在籍しています。これは、当院の全医師203人の34%となります。

これら若手医師の教育は、将来にわたって山梨県の医療の質的及び量的な基盤になると考え、新たに招聘した次の高度な知識と技術を有するエキスパート集団と日々の研鑽を積んでおります。

- ・ 災害・救急医療の専門家（平成25年度）
- ・ 肺がん手術のエキスパート（平成26年度）
- ・ 総合診療科・感染症医療に優れた医師（平成27年度）
- ・ da Vinci 手術のエキスパートの採用（平成28年度）
- ・ 当機構初のアメリカ留学を終えた精神科医療のエキスパート
(平成28年度)
- ・ 肝臓がんの専門医（平成29年度）
- ・ 小児循環器疾患の専門医（平成29年度）
- ・ 不整脈のカテーテル治療の技能を有する専門医（平成29年度）

今後も、地域のみならず、世界で活躍する多くの医師を育成できる教育環境の整備を図っていきます。

⑥ 信頼される病院を目指して

県立病院機構では、良質な医療の提供や高度先進医療を推進し、県民の健康の確保と増進に寄与することを目指して、職員一丸となって日々努めてきたところです。

しかし、今般、県立中央病院において「異型輸血医療事故」及び「薬

「剤紛失事案」が発生したことは、誠に遺憾であります。

二度とこのようなことが起こらないよう、原因の徹底究明と再発防止に向けた万全な対策を講じて参る所存です。

今後は、職員とともに、従前にも増して県民の信頼が得られるよう努めて参ります。

地域連携センターを中心に地域の医療機関と連携強化を図る中で、県立中央病院は平成28年7月に地域医療支援病院として承認されました。

今後とも、県立中央病院及び県立北病院は先進医療を取り入れながら、職員一同“早くきれいに治す”を合言葉に、患者さんが一日も早く元気な姿で家族の元にお帰りになれるよう取り組んで参る所存です。

今後ともご支援のほどお願い申し上げます。